

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立弁天小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和6年度の大阪市学力経年調査においては、全学年で大阪市の標準化得点を下回る結果となった。「学ぶ楽しさ」を感じることができる授業づくりと一人一人の個の特性の見取りが必要不可欠であり、担任を核とした全教職員がチームとして児童の見取りにあたる組織作りと、基礎・基本的な学習内容の確かな定着と「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導法の工夫が必要である。そのために教員一人一人の授業力と指導力の向上が不可欠であり、外部有識者を招いた研究と研修を継続的に実施していく一方で、不登校傾向の児童も現在は週3～4日程度登校できており、継続して児童一人ひとりを大切に寄り添った組織的対応を行うために、常に組織としての対応の在り方を見直し、安全・安心な生活環境づくりに取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校教育力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和4年度末より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校教育力経年調査における各学年の各教科の標準化得点を、いずれの学年も令和4年度よりも4ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を男女ともに令和4年度より上回るようにする。(令和4年度 男子：53.35 女子：56.00)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の教育アンケート(児童用)の「日々の学校活動の中で学習者用端末(こころの天気を含む)を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%にする。
- ゆとりの日については、決められた時間までに退勤する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。
(前年度 1.92%)
- 本市調査における「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職（校長・教頭等）に報告している」とする教員の割合を 100%にする。
- 令和7年度の教育アンケート（児童用）の「自分から進んであいさつをしている」の項目において、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。（前年度 81.8%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和7年度の教育アンケート（児童用）の「算数の授業は好きですか」の項目において学校全体での肯定的な回答をする児童の割合を前年度（75.5%）より向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上を維持する。（前年度 38.8%）
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 72%以上にする。（昨年度 70.7%）

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を利用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教員の割合を 92%以上を維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は「運営に関する計画」の最終年度にあたる。

【安全・安心な教育の推進】においては、全国での「不登校の増加」の課題に同じく「令和型不登校」とも呼ばれている従来からの見られる原因からは見えてこない、「特に主だった理由もなく、登校してきたときは普通に学校生活を送れる不登校児童」が見られるようになってきている。その中で、管理職をパイプとした子どもサポートネットや諸機関との連携、保健室を中心とした組織づくりを形成することで、不登校の増加や不登校児童の登校日の増加など一定の成果をもたらすことができた。また、行き渋りの見えた児童がオンライン参加できるハイブリッド型授業への対応など、学習保障に対する体制も整えることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】において、学力の向上面では、研究教科として設定した算数科を中心に「対話を中心とした授業デザインへの変換」を進めることができた。新しい授業デザインに教員も児童も慣れきっていない部分が十分な成果につながらなかった理由だと考えられるが、新しい指導要領で重視されている課題から見ても、今後も引き続きこのテーマにおける授業改善が必要である。一方、体力の向上面では、様々な取り組みを通して、コロナ渦において大きく体力が低下していた課題を克服することができた。

【学びを支える教育環境の充実】においては計画で掲げた具体的方策を実施するとともに、組織全体で意識化を図ることで中期目標を大きく上回ることができ、大きな成果を得ることができた。今後は「タブレット端末を文房具のように活用した、個別最適化された授業づくり」「月平均時間外勤務時間の 30 時間以内にする」といった働き方改革プラン」といった課題の実現に向けてそれに向けた大阪市から出される施策をしっかりと生かしながら更なる改革を教職員集団として取り組んでいくことが必要である。

大阪市立弁天小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。（前年度 1.92%）</p> <p>○本市調査における「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職（校長・教頭等）に報告している」とする教員の割合を 100%にする。</p> <p>○令和7年度の教育アンケート（児童用）の「自分から進んであいさつをしている」の項目において、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。（前年度 81.8%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校児童について、校内の組織や子どもサポートネットや関係諸機関との連携を活用し、登校しやすい環境づくりに取り組む。（不登校への対応）</p> <p>指標 校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。</p>	C
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会を中心とした「あいさつ運動」や地域と連携した「愛のひとこえ運動」を中心に学校生活の様々な場面で自分から進んであいさつをしようとする態度を育てる。（道徳教育の推進）</p> <p>指標</p> <p>児童会を中心とした「あいさつ運動」を学期に 1 回以上行う。</p> <p>教育アンケート（児童用）の「自分から進んであいさつをしている」の肯定的回答を 85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は、令和6年度 1.92%（8人/417人）に対し、令和7年度は 3.37%（13人/385人）であり、増加傾向にある。対象児童や家庭については、教育委員会、区役所の子育て支援室、子どもサポートネット、子ども相談センターなどと連携し支援を続けてきた。これからも連携を密に対応を続けていきたい。</p> <p>○「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職（校長・教頭等）に報告している」とする教員の割合は 100%である。いじめについては、軽微な段階で早期対応し解決に努めている。いじめは、担任だけが抱え込むことなく教職員全体に周知し、関係児童の人間関係や顔写真を確認し見守りを続けている。</p> <p>○令和7年度の教育アンケート（児童用）の「自分から進んであいさつをしている」の項目において、肯定的な回答の割合は 89.2%であり、目標を達成している。あいさつ運動などの強化週間の</p>

成果である。今後は、相手や場面に応じて、声の大きさ・言葉遣い・態度を選んであいさつができるようにしていきたい。

【取り組みの達成状況】

- ① 不登校児童について、登校しやすくするための環境作りはしているが、登校につながっていない児童が多い。校内調査において、不登校児童の在籍比率は 1.92%→3.37%に増加した。学校での対応が年々むずかしくなっている。
- ② 学期ごとにあいさつ運動を計画・実施することができた。また、アンケートの肯定的な回答の割合が 89.2%と目標を達成することができた。

次年度への改善点

- ① 関係諸機関と連携することで改善が見られた児童が数名いた。引き続き関係諸機関と連携をとったり、注意深く見守っていく必要がある。
- ② あいさつ運動などの取り組みを続けることで前年度と比べ肯定的回答の割合が 7.4%上昇した。あいさつへの意識は高まっているが自分からあいさつをすることや教室以外でのあいさつ、高学年のあいさつへの意識が依然として課題である。前年度から担任を中心とした声かけを行っている。継続することでよりあいさつへの意識を高めていく。

大阪市立弁天小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力、体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度の教育アンケート(児童用)の「算数の授業は好きですか」の項目において学校全体での肯定的な回答をする児童の割合を前年度(75.5%)より向上させる。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上を維持する。(前年度38.8%)</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びも含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。(昨年度70.7%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の研究を進めることで、できる喜びやわかる楽しさを味わわせる。 (言語活動・理数教育の充実)</p> <p>指標</p> <p>教育アンケート(児童用)における「算数の授業は好きですか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を昨年度(75.5%)より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>自分の考えを様々な方法(話す・書くなど)で発表する力、人の話を聞いて、自分の考えと比べたり、よりよい考えを作り出したりする力を身につけさせる。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標</p> <p>教育アンケート(児童用)の項目について「友達の意見を聞いたり自分の考えと比べたりして発表することができる」の肯定的な回答を80%以上を維持する。(前年度80.6%)</p>	C
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科の授業の工夫や委員会活動を主体とした学期1回の体育的行事の計画・実行や児童集会を活用を通じた児童主体の運動に関する活動を通して、運動好きの児童を育てる。</p> <p>指標</p> <p>令和7年度の教育アンケート(児童用)における「運動が好きですか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合をどの学年においても80%以上にする。(昨年度高学年において80%を下回るクラスが見られた)</p>	A
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和7年度の教育アンケート(児童用)の「算数の授業は好きですか」の項目において学校全体での肯定的な回答をする児童の割合は79.1%で前年度より向上した。主体的・対話的で深い学び</p>	

を重視した「質の高い授業づくり」の実現に向け、算数科の研究授業や一人1授業の校内研修を実施することによる成果である。

○令和7年度の教育アンケート（児童用）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は50.3%であり、目標を達成することができた。授業の中で対話的な活動を取り入れている成果が表れている。

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を79.02%であり、昨年度より8.32ポイント上昇した。今後も、運動好きな子どもの育成に励んでいく。

【取り組みの達成状況】

- ① 昨年度75.5%から今年度79.1%に向上した。1～4年生においては75%を上回っており、導入や学びの過程を大切にしながら授業を続けてきた成果が表れている。
- ② アンケートの結果は全学年で79.2%で、昨年度より1.4%下がった。各学年でペア交流や小グループでの話し合い、友達の意見を取り入れての発表、ICT機器を用いた意見交流等、多くの取り組みを行い、話を聞くことや自分の考えと比べることができるようになってきている。しかし、発表については苦手意識をもっている児童が多い。特に高学年では挙手発表が少なくなっている。
- ③ どの学年においても80%以上（1年100%、2年95.9%、3年93.1%、4年98.4%、5年95.8%、6年86.3%）であったため、Aの評価にした。どの学年でも運動場で元気に遊ぶ姿が見られる。また、弁天アスレチックやなわとび月間をきっかけに、意欲的に運動に取り組む児童がいた。

次年度への改善点

- ① 「好き」と回答していても、基礎基本の力が身に付いていない児童も見られる。また、高学年になるにつれて苦手意識をもっている児童が増えていく傾向がある。喜びや楽しさを大切にしながら学力が向上するような手立てが必要である。
- ② 挙手してみんなの前で話すことだけが発表ではないことを共通理解し、スライドやスカイメニューでの意見交流、グループでの発表活動など様々な形の発表を提示することで苦手意識や抵抗を減らしていく。自分の意見を表現することに自信をもつことができる取り組みを進める必要がある。
- ③ 「肯定的に回答した児童の割合」を評価指標としていたが、児童の運動への積極性をより深く捉えるため、「あてはまる」と回答した全ての学年児童の割合を70%以上にすることを新たな目標とする。（令和7年度「あてはまる」の回答割合は、1年85%、2年79%、3年81%、4年85%、5年77%、6年64%となっている）

大阪市立弁天小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を利用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教員の割合を 92% 以上を維持する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>情報活用能力一覧に沿って授業を行い、ICT (パソコン等) を活用した教育の推進を図る。 (ICT を活用した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>教育アンケート (児童用) の「日々の学校活動の中で学習者用端末 (こころの天気を含む) を活用している」の項目において、肯定的な回答を行う児童の割合を 85% 以上にする</p>	B
<p>取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議や研修会のもち方を工夫するとともに、週 1 回ゆとりの日を設定し、18 時までには退勤できるようにする。また、長期休業中に学校休業日を設ける。(夏季休業 5 日、冬季 2 日) (働き方改革の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 92% 以上を維持する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学習者用端末の活用率 (授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を利用した日数の割合) は、12 月時点で 69% であり、目標の 50% を超えることができた。こころの天気を未入力である児童への声かけ、デジタルドリル (Navima) の活用率が低いことなどが今後の課題である。活用に向けての研修を続けていく。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教員の割合は 100% であり、目標を達成することができた。</p>

【取り組みの達成状況】

- ① Navima やコグトレ、Sky メニューなど授業や宿題で利用している等、活用の幅が広がっており、ほとんどの学年で85%を概ね超えている。一方で心の天気の入力児童もいる。
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合が100%であり夏季に5日、冬季に2日学校休業日を設定し実施した。

次年度への改善点

- ① 活用の幅を増えることで結果的に活用率が上がるだけでなく、今一度心の天気や相談申告機能などの活用についての手立てが必要である。
- ② 週1回18時に退勤する日を引き続き設定し月45時間以上の残業がないよう努めていく。